

これらの子供の興味を喚起し、話の誘導をたすけるものと思はれます。特に氣長な指導を以て、話すことに興味を自信をも持たせ、氣輕に話すやうに仕向けてやる心づかひが大切であります。

○お行儀よくみませう。

本をみることは日常の挨拶、返事等言葉の生活へ結びついてくると同時に行儀、作法の修練へも結びついてきます。本をみる時の姿勢、本の扱ひ方等であります。これ等についてはすでによく御承知のことでありますが、前同様大人の態度が影響するところが大きいのでありますから、扱ひ方にしても、大切にしないさいといふだけでなく、破れ

遊戯による躑

今度、學徒體育訓練實施要綱の發表に依れば、その基本方針としては、戦力増強、聖戦目的完遂を目標とし、學徒の體力、健康状態等を考慮し、適切なる訓練により、強健なる者を一層鍛鍊するに共に強健ならざる者の強健化に力めつゝ、強靱なる體力を不撓の精神との育成に力むること、然して訓練は平素より普及強化徹底せしめられること。

たら繕ふことも子供さしよにやり、後始末をよくこいふことも、先づ子供達にしまひやすいやうなしまひ場所を與へておいてから要求すること、心なき大人のする廢物になつた本の扱ひ方が、子供達をして本を粗末に扱はせる動機になることも考へて慎重にすること等、心すべきことが多いのであります。

以上申し述べましたところは甚だ不十分であります。本をみる「こ」が子供達に及ぼす影響の頗る大きく、廣く且深きにわたることを十分お考へ下さいまして、「本をみる」のよき躑を幼児達のために躑けて下さるやう希みます。

附屬幼稚園 古澤 静子

又特に男子學徒に在りては、卒業後その凡てが、直ちに將兵として役立つことに必要な資質の鍊成にある。云ふのである。

この要綱は勿論學徒を對象としたものであるが、基本方針は、大切な幼児の身體鍊成の上にも及ぼし考へられねばならないと思ふ。

緊迫せる現下の情勢に於て、體育全般の高度の發達が要望される今日、幼児の行動に於ても、空襲をうけたま假定した場合、命令に従つて直ちに指定の場所に集合し、そこから列を作つて待避所へ走つてゆく。或はその前に坐布團を頭にかぶる。或は敏捷に机の下で伏せの姿勢をこる。云つた様に、大人が濡れ筵で火を消し延火を防ぐ積極的な活動をする内、子供達にはこの様な事が、迅速に秩序正しく整然と行はれなければならないから應變の處置をこり得る爲の忍耐、自信、協同、機敏、果斷等の自由な身體支配の能力は平素から養はれ、躡けられてゐなければならぬ。

今、それ等の事を思ひ、遊戯に於て幼児の躡けらるべき方向の一部が、當今の時勢に對應すべき行動にあることを考へて、之を彼等の活動と切り離すことの出来ない遊戯と關聯させ、幾つかの運動を遊びによつて取扱つてみたいと思つたのである。

一、すみやかに行動する爲の遊び

其の一、

一同音楽に合はせて、自由な方向に散在してスキップをし、適當な折に先生は樂器で「止め」の合圖音樂を全然こめてしまふか、或はハホト、ハヘイ、ロニト等の和音を三回位續けて弾くをし、一人の幼児を指名する。それ

を聞くや、一同は直ちに指名された幼児のまゝころへ集つて駈けてゆき、指名された幼児を先頭に、一列に並ぶ。出来るだけ早く順序よく並ぶことにする。

其の二、

一同椅子に着席してゐる。最初一番端に着席してゐる〇〇さんが音樂にあはせて駈け出し、あらかじめ指定された場所で止まる。次に隣生が駈足で来て〇〇さんの後に立つ。立ち止まるま直ぐに次の者が出てその後を並ぶ。ま云ふ工合に、始めの者から順々に音樂に合はせながら間をおかずに出て来てすみやかに列を作る。

列が出来たら又その位置に戻る事をする。即ち最初の者より音樂に合はせながら駈足で元の位置に着席する。着席するま直ちに次の者が同様にして歸つてゆく。

この様に音樂と共に全體が機敏に一つの動作を行ふのである。

其の三、

之も全生音樂に合はせ、自由な方向にばらばらになつてスキップ或は駈足をしてゐる。先生が「右」ま云ふま、ばらばらになつてゐた全生は二人づゝ組み、各自右手を繼ぎ合せ、二人で右の方にくるくゝ廻る。

(一人で駈る時、一人で手を組んで廻る時は、音樂をかへてみる)

音楽が變るに、各自手を離し、又自由に駈る。

左に云ふ合圖がある時には、集つた二人は互に左手を繼いでくるく廻る。

(音楽は簡単な駈足調のものを用ひる)。

其の四、

全生、行進歌を歌ひながら自由に歩いてゐる。突然先生の「五人」さか「三人」さか言ふ合圖に依り、直ちにその人数に集る。

ハホト、ハヘイ、ロニトの和音の判別の出来る幼児ならば、あらかじめ、ハホト二人ハヘイ三人、ロニト四人さ云ふ様に定めておき、行進の途中でハホトが鳴れば二人寄り、ロニトが鳴れば四人集るさ云ふことにしても面白い。

其の五、

任意の場所を幾つか選び、例へば室の向ふの隅、こちらの長椅子の前、ピアノの側さ云ふ工合して、そこに一同が集れる位の場所を描いておく。

一同音楽にあはせながら、駈るか歩くかする。行進の途中で突然高い音が連續して鳴り出せば、隅の圓の中に駈けて行つて集り中位の音が鳴つた時にはピアノの前に、更に歩いてゐる低音が續いた時には、一齊に椅子の前の圓の中に入るさ云ふ様に、行進の途中で鳴り出す異つ

た、高中低音を聴いて、前以て約束してある場所にすみやかにさび込むのである。

(高中低音の代りに、ハホト、ハヘイ、ロニトの和音を用ひて取扱つてもよいと思ふ)

一、みんな揃つて駈ること。

皆で駈る時には、步調を整へ、揃つて行動する事が肝要であらう。

先頭に大きい者が立つに、後に續く小さい者は同じ步調を保つ事が出来なくて次第にへだたりが出来てくる。全體で駈る時は成るべく小さい順の方がよい。そして步調を合せて駈ることにしたい。

駈る事は又個人の心臓をも強くするものである。

園庭を廻る距離は一回二百米位が適當ではないかと思ふ。勿論最初はもつと短い距離でなければならぬ。

先を争つて押しついたり、口やかましく騒ぎながら駈る事は禁物である。

時には曲線走路を選び、木から木へ、又は他の障礙物を目標に、わざと夫等に觸れない様にして障礙物を廻つてくる。

先生の爽やかなかけ聲や、さえた笛の音の應援は、一層子供達の心をひきたて、足さりも軽く元氣な駈足を續ける事が出来るであらう。